



応用言語学の実践の場である教育現場では、言語を用いて思考し、理解する力の育成を重視しています。

## 略歴

中国天津市での日本語教育及び日本国内の高等教育機関での日本語教育と、大規模語学試験の問題作成・運営に従事したのち、日本工業大学共通教育学群に着任した。現在は視覚に障害がある学習者の日本語学習を中心とした研究を進めるとともに、大学生のアカデミックリテラシーの育成にも注力している。

## 所属学会など

日本語教育学会  
教育心理学会  
大学教育学会  
初年次教育学会  
日本リメディアル教育学会  
グローバル人材育成教育学会 ほか

## 研究紹介

## 日本語教育におけるインクルージョン

■ 視覚に障害がある日本語学習者のための「合理的配慮」に関する研究  
視覚に障害がある日本語学習者への学習機会の担保と学習環境の向上を目的とした研究をとおして、多様な学習者が自由に学び、自らを高め、社会に参画するインクルージョンの実現を目指しています。「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（いわゆる「障害者差別解消法」）が2021年に改正され、障害がある学習者の学ぶ権利を保障するための合理的配慮の提供が法的義務となりました。これまでの研究の過程で、多くの当事者の協力を得て作成した授業支援ハンドブック（視覚に障害がある学習者が在籍する日本語クラスの運営方法、試験の実施方法、キャリア支援や日常の支援など、右図。）が今後活用されることを期待しています。

■ 視覚に障害がある日本語学習者の認知と学習に関する研究  
現在は、視覚に障害がある日本語学習者の語彙の習得に関する研究を進めています。視覚情報に頼らず事物を認知し、認識し、概念を構築する過程を分析し、教育に活かすことを目的としています。そして、本学で学ぶ学生には、多様な他者のニーズを知り、それに応えるための調査、分析の方法を学ぶ機会を提供しています。



## 主な研究（科研費）

- 基盤研究（C）16K02819 研究代表者  
2016～2019年度：視覚障害教育から切り拓く  
国際共生社会における日本語インクルーシブ  
教育の基盤構築
- 基盤研究（C）21K02727 研究代表者  
2021～2024年度：グローバル化時代における  
視覚特別支援教育と日本語教育の有機的連携に  
向けた基盤構築

## 主な著作物

- 吉岡英幸編著（2008）『徹底ガイド 日本語教材』  
凡人社（分担執筆）
- 徳弘康代監修（2010）『語彙マップで覚える 漢字  
と語彙 中級1500』Jリサーチ出版（分担執筆）
- 吉岡英幸・本田弘之編著（2017）『日本語教材研究  
の視点 新しい教材研究論の確立をめざして』くろ  
しお出版（分担執筆）